

『家の中に何があるか』(列王記 第二 4 章 1-7 節) 2021.1.17.

<はじめに> 私たちは今厳しい状況に取り囲まれています。何とか打開しようと、万策を練り出して乗り越えようと必死に戦っている現状です。このような状況で、私たちは何ができるのでしょうか。

I 苦しみの中で叫ぶ(1)

①主を恐れる者にも

「あなたのしもべ」はエリシャの預言者集団の一員でした。彼は主を恐れて生きて来ましたが、家族と借財を残して死にました。なぜ借財があったのでしょうか。債権者は二人の子を借金の形に取ろうとします。彼の家族は、今や散り散りになる危機に直面していました。

②叫ぶ者の声

苦しみ・悩みを抱えるとき、誰に助けを求めますか。預言者の妻はエリシャに訴えました。どんな思いで、何を求めていたのでしょうか。「苦難の日にわたしを呼び求めよ」(詩篇 50:15, 参照 107:6)と主は言われます。主を呼び求める者に必要なことは何でしょうか。

③私たちの負い目

返済は他に優先されるものです。罪は負い目となり、私たちに死を突き付けます(ロマ 6:23)が、主に赦しを求めることができます(マタイ 6:12)。パウロは福音の負い目を感じていました(ロマ 1:14)。私がしなければならぬ、と主から示されていることはありますか。

II 神の人のことば(2)

①何をしてあげようか

イスラエルの律法では、借金の形として奴隷にすることは禁じられていました(レビ 25:39)。「これでいいのですか」と妻はエリシャに叫び、彼は「何をしてあげようか」と答えます。エリシャにどんなことができるでしょう。実際、彼は何をしましたか。

②あなたには何があるのか

神の人(7)エリシャは彼女にことばを伝え、神への信頼が揺らぐ彼女の心を支え励まし、彼女が持っているものに目を向けさせます。彼女は「何もない」と答えた後、油の壺一つを見つけます。私たちは、乏しい状況を安直に「ない」と言っていないでしょうか。

③人の僅かに働かれる神

神は偉大な御方ですが、僅かな無駄も惜しまれる方です(マタイ 25:26, 創世記 18:25-26)。神の御業の多くは、人の持つ僅かに気付かせ、それを取り上げるところから始まります(マタイ 14:17)。僅かなものであっても神が関わられると、大いなる結果へとつながります。

III 私にもできる

①主に叫ぼう(1)

緊急・危機・切迫した時に叫びます。そこに本音が入っています。私たちの心からの叫びを主は決してないがしろにされません。必ず聞き、応えると約束されています。信じますか。主が私の声を聞いて答えてくださった経験は、この信仰を支え励まします。

②家の中を見渡そう(2)

自分が乏しいと、周囲の豊かさに惹かれ、比べてしまいます。家の中、身近なところと与えられているものも神の賜物です。神の御前で、私が持っているもの、与えられているものに目を向けようではありませんか。何も与えられていない人はいないはずですよ。

③神に結び付けよう(2)

彼女の叫びを聞いたエリシャは、彼女と取り囲む状況、持っているものを神に結び付ける助けをしました。信仰を奮い立たせたのです。祈るしかできないのは無力ではありません。全能なる神が私の身近で働き働いてくださいます(ガラテヤ 5:15-16, ハバクク 3:1 文語)。

<おわりに> 「私はあなたの行いを知っている。見よ、わたしは、だれも閉じることができない門を、あなたの前に開いておいた。あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである」(黙示 3:8)。主の励ましに奮い立とうではありませんか(H.M.)